

# 自分たちができる『当たり前のこと』をやり続けていく

## 繊維産業の盛んな多可町に拠点を置く会社

株式会社ソーイング竹内は、繊維産業の盛んな多可町に縫製加工業をメインとして創業し、現在も播州織に限らず、全国各地から届く様々な生地を形にして、世に送り出しています。近年では、地域産の質の高い生地、日本の高度な染色技術を駆使し、日本独自のハンカチ文化を国内は元より、世界に発信していこうと、ハンカチブランド<Remember Me(リメンバーミー)>と<ROOTZIEL(ルーツイール)>を立ち上げ、雑貨商品の製造販売卸にも力を入れています。



## 社会貢献活動を始めたきっかけは『エコアクション21』の取得

コスト面でアジアに押されている状況で会社も危機的な状況にあり、生地を使い切るにはどうしたらいいか、と単純な発想から状況の打開策を模索していました。当時のお得意先様より、環境省のパイロット事業であった『エコアクション21』(※1)についてお声がけいただき、2004年の認定取得(以後2年おきに認定更新)にいたしました。事業を進めるにあたり、それまで無かった会社の理念ができたことも大きかったです。我々が目指しているところは、機械的なものづくりではなく『心が伝わるものづくり』です。自分たちだけが良い、という考え方では企業としても長くは続いていくことができないと感じています。

※1 エコアクション21

環境省が策定した日本独自の環境経営システムで、企業が環境への取り組みを自主的に行うための方法を定めています。第三者機関が認証・登録し、更新には審査が必要です。

## 具体的な社会貢献活動について

### ■地域の清掃活動

月に1回、草が伸びる夏の時期は2回、地域の清掃活動を行っています。ゴミ拾いや草刈り、用水路掃除など、会社周辺地域の清掃をメインに行っており、15年以上継続して実施しています。



### ■「災害時における事業所の施設利用に関する協定」締結

工場の立て替えを検討していた折、地域の公民館だけでは災害時に収容できる人数が限られているという現状を知り、せっかく建て替えるのであれば、地域の方々に避難所として使っていただける建物にしたいと考えました。昨年建て替えた工場は、近隣の中で耐震性に優れた一番新しい建物ということもあり、災害時に避難所として活用することを想定して自家発電・蓄電池を備え、バリアフリー化したトイレも数多く備えています。



### ■地域の施設・イベントへ自社製品を提供

地域があって弊社があるという考えから、地域との繋がりを大事にし、地域イベントには、弊社で作ったTシャツを無償提供しています。また、多可町は『敬老の日』発祥の地です。そのような地域に拠点を置いているという縁もあり、地域のおじいちゃんおばあちゃんに自社で作ったマフラーなどをプレゼントしています。



### ■お裁縫教室の実施

定期的に年に数回、地域の方を対象に、自社工場のスペースを一部開放して、お裁縫教室を行っています。現在は買ったモノが手に入る時代ですが、お母さんやおばあちゃんが作ってくれたお弁当袋や風呂敷など、やはり気持ちがこもるものになります。ミシンを使ったことがない方も参加者にはおられるので、社員がきちんとレクチャーをし、皆様それぞれが素敵なものづくりを体験しておられます。

### ■廃棄生地のリサイクルへの取り組み

地球環境に配慮した循環型の産業スタイルの実現に協力するため、製品生産の過程で生み出される廃棄生地を、リサイクル資源の原料として使って頂ける企業に提供しています。なお、この廃棄生地は有用な基材へと再生されることで、各種工業用機械部品などにカタチを変えています。



## 活動を継続することでの社内の変化

### ■当たり前のことを社員一人ひとりができる環境に

エコアクション 21 を取得前は、どちらかという整理整頓などができていない会社でした。地域の清掃などは土曜日に行っているため、最初の頃は社員からの反発もあったように思います。しかし、徐々に意識も変わり、今では自主的に活動の提案を行い率先して取り組むなど、清掃に限らず、社員みんなで同じ方向を向いて様々な活動ができるようになりました。

### ■社内の密な連絡体制

縫製加工業ということもあり、生地裁断から縫製、仕上げ、発送と、過程を経て商品が世に出て行きますが、例えば裁断を担当していると、裁断された生地がどのような製品になり、どのような場所で売られているのかが分かりません。

社員みんなが同じ方向を向いて活動するには、モチベーションの維持も大切だと感じているので、手掛けた商品が実際に売られている百貨店での販売状況などを営業から積極的に報告させ、モチベーションを含め製品づくりの責任感を持って仕事に取り組む体制づくりをしています。今後もそういう姿勢で、社内の信頼関係を築いていきたいと考えています。



## 活動を通じて社外にも変化が

### ■地域に対してのイベント開催で、求人にも変化が

お裁縫教室は自社のことを知ってもらえる良い機会となっています。参加される地域のお母さん世代の方々が、弊社の業務を知ること、子育てから復帰される時期に「働いてみようかな」と前向きに仕事復帰を考えるきっかけにもなっているようです。

パートや内職の方の募集をかけた際には、働きたいと言ってくる方が多く、現在働いている社員は 20 代 30 代も多く在籍し、フレックスタイムを取り入れるなど働き方も多様化しています。

## 今後の課題と抱負

### ■地域のために自分たちができること

繊維産業が衰退し、この地域の活気もかつてほどではなくなる中、なかなか地域外の情報に乏しい現状があります。

この地域に拠点を置く弊社が『地域未来牽引企業』(※2)として、弊社の SDGs (※3)への取り組みをはじめ、地域に対して積極的に情報発信していくことが必要だと感じています。現在は多可町と定期的に話し合いの場を設け、行政と連携して何かできることはないかと模索しているところです。

#### ※2 地域未来牽引企業

地域経済を牽引する担い手となる地域の中核企業を「地域未来牽引企業」として、経済産業省が選定を行っています。

#### ※3 SDGs

「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称。2015 年国連サミットで採択された国際目標で、持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成されています。



## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための 17 の目標



### ■自分が当たり前だと思うことを積極的に行える人づくり

現在取り組んでいることは、社会貢献として行っていることではなく、私たちが「当たり前に行わなければならない」ということを、自分たちができる範囲で実行しています。今行っている活動を通じ、社員をはじめ周りの方が『当たり前のことが、当たり前に見える』というような人になってもらえればよいと思います。またそれが、次の世代にもずっと続いていくような…さらに発展した活動になればと考えています。

様々な活動を通して社会に貢献できる『人』を育て、  
地域とともに成長できる企業を目指します

# コロナ禍の中で自分たちができること

2020年、中国の武漢を中心に感染が拡大した新型コロナウイルスは、瞬く間に世界へ拡がり、2021年2月10日現在で国内では累計感染者数408,436人（うち死亡者6,604人）、世界的には累計感染者数106,125,682人（うち死亡者2,320,497人）に達し、収束まではまだまだ時間を要すると思われる。

2020年は一時的に、市場はマスク不足に陥り、感染に対する不安が増す中で、様々な企業がマスク等の感染防止を目的とした製品づくりに取り掛かりました。約20年前からOEM生産にて布製マスクを生産してきた当社も例に漏れず、3月中旬より近隣の食品加工場様や金融機関様の要望に応え、布製マスクの生産を行い、3月下旬からは本格的に布製マスクの生産に取り掛かりました。

## 災害備蓄用マスクと自社製作マスクを寄贈

新型コロナウイルスの感染拡大が深刻となる中、ソーイング竹内ではこれまで培ってきた技術と蓄積してきた経験を活かし、布製マスクの生産を開始。また、弊社社屋が有事の際の地域避難所に指定されていることから、自社で不織布マスクの調達を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染症対策に役立てて頂ければと、2020年4月6日、社内備蓄分と合わせて5,000枚を多可町へ寄贈させて頂きました。



※2 エコテックス®スタンダード100

世界トップレベルの安全な繊維製品の証とされ、繊維製品関連全般を認証対象とし、世界最高水準の安全レベルをもって、繊維関連の「素材」や「製品」に350種類以上の有害な化学物質が含まれないことを証明するものである。

## 収束への願いを込めてマスク2万枚寄贈

2021年1月25日、多可町役場において、エコテックス®スタンダード100認証を取得した「洗えるマスク」を、弊社の若手社員で結成した【会社を良くしよう会】の提案で、地元の多可町に寄贈させて頂きました。

新たに緊急事態宣言が発令されコロナウイルス収束の兆しが見えない中、多可町民の皆様（約2万人）に着用して頂けるように「洗えるマスク」20,000枚を寄贈させて頂き、多可町民の皆様と共にこの危機を乗り越えたいと考えております。

## 国内初取得の認証マスクを地域の未就学児へ

2020年5月14日に弊社と西脇の株式会社ギフトサロン西山様と合同で、それぞれ多可町と西脇市の未就学児を対象に、弊社から多可町へ、ギフトサロン西山様から西脇市へ合計3,000枚の子供用サイズ（2種類）の布製マスクを寄贈致しました。

寄贈した布製マスクは、2020年5月1日にマスク製品として国内で初めて『エコテックス®スタンダード100』認証（※2）を取得したもので、販売前にいち早く地域の子どもたちに世界的安全基準をクリアしたマスクを届けたいとの思いから、それぞれの地域の未就学児への寄贈に至りました。

未来を担う子どもたちの新型コロナウイルス感染症対策に役立てて頂ければと思います。

